[熊本大]

r を正の実数とする。数列 $\{a_n\}$ を $a_n=\int_0^{n\pi}e^{-rx}|\sin x|dx$ $(n=1,\ 2,\ 3,\ \cdots)$ と定めるとき,以下の問いに答えよ。

- (1) $a_{n+1}-a_n$ を求めよ。
- (2) $\{a_n\}$ の一般項を求めよ。
- (3) $\lim_{n\to\infty} a_n \, \delta \, r \, \delta$ 用いて表せ。
- (4) (3)で求めたrの式をf(r)とおく。 $\lim_{r\to +0} rf(r)$ を求めよ。

2 [新潟大]

自然数nに対して、関数 $f_n(x)$ を次のように定める。

$$f_1(x) = 1 - \frac{x^2}{2}$$
, $f_n(x) = \int_0^x f_{n-1}(t) dt$ (n が偶数のとき)
$$f_n(x) = 1 - \int_0^x f_{n-1}(t) dt$$
 (n が 3 以上の奇数のとき)

次の問いに答えよ。ただし必要があれば、 $0 < x \le 1$ のとき $x - \frac{x^3}{3!} < \sin x < x$ が成り立つことを用いてよい。

- (1) 関数 $f_2(x)$, $f_3(x)$ を求めよ。
- (2) $0 \le x \le 1$ のとき、次の不等式が成り立つことを示せ。 $-\frac{x^4}{4!} \le f_1(x) \cos x \le \frac{x^4}{4!}$
- (3) $0 \le x \le 1$ のとき、次の不等式 $-\frac{x^{2m+2}}{(2m+2)!} \le f_{2m-1}(x) \cos x \le \frac{x^{2m+2}}{(2m+2)!}$ がすべて の自然数 m に対して成り立つことを示せ。
- (4) 極限値 $\lim_{m o \infty} f_{2m-1} \left(rac{\pi}{6}
 ight)$ を求めよ。

[京都府医大]

n & 1以上の整数とし

$$f_n(x) = \frac{1}{(2-x)^n} + (-1)^{n-1} \frac{1}{(2+x)^n} \quad (|x| < 2)$$

とおく。これについて,

$$I_1 = \int_0^1 f_1(x) dx$$
, $I_n = \int_0^1 (1-x)^{n-1} f_n(x) dx$ $(n \ge 2)$

とおく。

- (1) $f_n(x)$ の導関数 $f_n'(x)$ を $f_{n+1}(x)$ を用いて表せ。
- (2) n が奇数のとき $I_n=\frac{1}{2^{n-1}n}+I_{n+1}$, n が偶数のとき $I_n=I_{n+1}$ であることを証明せ
- (3) $0 \le I_n \le \frac{2}{n}$ であることを証明せよ。
- (4) $\sum_{k=1}^{\infty} \frac{1}{4^{k-1}(2k-1)} = \log 3$ であることを証明せよ。

[熊本大]

(1)
$$a_n = \int_0^{n\pi} e^{-rx} |\sin x| dx$$
 に対し、 $n\pi \le x \le (n+1)\pi$ で $\sin x$ の符号は不変なので、

$$a_{n+1} - a_n = \int_0^{(n+1)\pi} e^{-rx} |\sin x| dx - \int_0^{n\pi} e^{-rx} |\sin x| dx$$
$$= \int_0^{(n+1)\pi} e^{-rx} |\sin x| dx = \left| \int_0^{(n+1)\pi} e^{-rx} \sin x dx \right|$$

$$\sum \sum (e^{-rx} \sin x)' = -re^{-rx} \sin x + e^{-rx} \cos x \cdots (e^{-rx} \cos x)' = -re^{-rx} \cos x - e^{-rx} \sin x \cdots (2)$$

①×
$$r+$$
②より, $-(r^2+1)e^{-rx}\sin x = \left\{e^{-rx}(r\sin x + \cos x)\right\}'$ となり,
$$a_{n+1} - a_n = \left|-\frac{1}{r^2+1} \left[e^{-rx}(r\sin x + \cos x)\right]_{n\pi}^{(n+1)\pi}\right|$$
$$= \frac{1}{r^2+1} \left|e^{-(n+1)\pi r}\cos(n+1)\pi - e^{-n\pi r}\cos n\pi\right|$$
$$= \frac{1}{r^2+1} \left|e^{-n\pi r}e^{-\pi r}(-1)^{n+1} - e^{-n\pi r}(-1)^n\right|$$
$$= \frac{e^{-n\pi r}\left|(-1)^n\right|}{r^2+1} \left|-e^{-n\pi r} - 1\right| = \frac{e^{-\pi r}+1}{r^2+1}e^{-n\pi r}$$

なお、この式はn=1のときも成立している。

(3)
$$r > 0$$
 から、 $n \to \infty$ のとき $e^{-n\pi r} \to 0$ より、 $\lim_{n \to \infty} a_n = \frac{1 + e^{-\pi r}}{(r^2 + 1)(1 - e^{-\pi r})}$

[解 説]

定積分と数列を融合した超頻出の有名問題です。このタイプの部分積分は計算ミスを犯しやすいので、いつも①②のような式を先に立式しています。

[新潟大]

(1)
$$f_1(x) = 1 - \frac{x^2}{2}$$
 から,条件より, $f_2(x) = \int_0^x f_1(t)dt = \int_0^x \left(1 - \frac{t^2}{2}\right)dt = x - \frac{x^3}{6}$
$$f_3(x) = 1 - \int_0^x f_2(t)dt = 1 - \int_0^x \left(t - \frac{t^3}{6}\right)dt = 1 - \frac{x^2}{2} + \frac{x^4}{24}$$

また、
$$h(x) = \frac{x^4}{4!} - f_1(x) + \cos x = \frac{x^4}{4!} - 1 + \frac{x^2}{2} + \cos x$$
 とおくと、
$$h'(x) = \frac{x^3}{2!} + x - \sin x$$

以上より、
$$0 \le x \le 1$$
 において、 $-\frac{x^4}{4!} \le f_1(x) - \cos x \le \frac{x^4}{4!}$

(3)
$$0 \le x \le 1$$
 のとき,不等式 $-\frac{x^{2m+2}}{(2m+2)!} \le f_{2m-1}(x) - \cos x \le \frac{x^{2m+2}}{(2m+2)!} \cdots (*)$ が,す

べての自然数mに対して成り立つことを、数学的帰納法により証明する。

(i)
$$m=1$$
のとき (2)より、成り立っている。

(ii)
$$m = l \mathcal{O}$$
 とき $-\frac{x^{2l+2}}{(2l+2)!} \le f_{2l-1}(x) - \cos x \le \frac{x^{2l+2}}{(2l+2)!} \mathcal{O}$ 成立を仮定すると、 $-\int_0^x \frac{t^{2l+2}}{(2l+2)!} dt \le \int_0^x \{f_{2l-1}(t) - \cos t\} dt \le \int_0^x \frac{t^{2l+2}}{(2l+2)!} dt$ よって、 $-\frac{x^{2l+3}}{(2l+3)!} \le f_{2l}(x) - \sin x \le \frac{x^{2l+3}}{(2l+3)!}$ となり、 $-\int_0^x \frac{t^{2l+3}}{(2l+3)!} dt \le \int_0^x \{f_{2l}(t) - \sin t\} dt \le \int_0^x \frac{t^{2l+3}}{(2l+3)!} dt$ よって、 $-\frac{x^{2l+4}}{(2l+4)!} \le 1 - f_{2l+1}(x) + \cos x - 1 \le \frac{x^{2l+4}}{(2l+4)!}$ となり、 $-\frac{x^{2l+4}}{(2l+4)!} \le f_{2l+1}(x) - \cos x \le \frac{x^{2l+4}}{(2l+4)!}$

すると,m=l+1のときも成り立っている。

(i)(ii)より,自然数mに対して(*)は成り立っている。

(4) (*)に
$$x = \frac{\pi}{6}$$
 を代入すると,
$$-\frac{1}{(2m+2)!} \left(\frac{\pi}{6}\right)^{2m+2} \le f_{2m-1} \left(\frac{\pi}{6}\right) - \frac{\sqrt{3}}{2} \le \frac{1}{(2m+2)!} \left(\frac{\pi}{6}\right)^{2m+2}$$

すると、
$$0<\frac{\pi}{6}<1$$
から、 $m\to\infty$ のとき、 $f_{2m-1}\left(\frac{\pi}{6}\right)-\frac{\sqrt{3}}{2}\to 0$ となるので、
$$\lim_{m\to\infty}f_{2m-1}\left(\frac{\pi}{6}\right)=\frac{\sqrt{3}}{2}$$

[解 説]

定積分と不等式,加えて極限を問うものです。記述量は多いですが,方針に迷いが 生ずることはないでしょう。

「京都府医大

(1)
$$n$$
 を自然数とし、 $f_n(x) = \frac{1}{(2-x)^n} + (-1)^{n-1} \frac{1}{(2+x)^n}$ ($|x| < 2$) に対して、
$$f_n'(x) = \frac{n}{(2-x)^{n+1}} - (-1)^{n-1} \frac{n}{(2+x)^{n+1}}$$
$$= n\left\{\frac{1}{(2-x)^{n+1}} + (-1)^n \frac{1}{(2+x)^{n+1}}\right\} = nf_{n+1}(x)$$

(2) (1)の結論を利用すると,

$$\begin{split} I_n &= \int_0^1 (1-x)^{n-1} f_n(x) dx = -\frac{1}{n} \Big[(1-x)^n f_n(x) \Big]_0^1 + \frac{1}{n} \int_0^1 (1-x)^n f_n'(x) dx \\ &= \frac{1}{n} f_n(0) + \frac{1}{n} \int_0^1 (1-x)^n n f_{n+1}(x) dx = \frac{1}{n} f_n(0) + I_{n+1} \\ \text{T.T.}, \quad f_n(0) &= \frac{1}{2^n} + (-1)^{n-1} \frac{1}{2^n} = \frac{1}{2^n} \{ 1 + (-1)^{n-1} \} \text{ List} \mathcal{DC}, \end{split}$$

- (i) n が奇数のとき $f_n(0) = \frac{2}{2^n} = \frac{1}{2^{n-1}}$ より、 $I_n = \frac{1}{2^{n-1}n} + I_{n+1}$
- (ii) n が偶数のとき $f_n(0) = 0$ より, $I_n = I_{n+1}$

(3)
$$0 \le x \le 1$$
 において、 $f_{n+1}(x) = \frac{(2+x)^{n+1} + (-1)^n (2-x)^{n+1}}{(2-x)^{n+1} (2+x)^{n+1}}$

$$2+x \ge 2-x > 0$$
 から $f_{n+1}(x) \ge 0$ となるので、 (1) から $f_n(x)$ は単調に増加し、

$$f_n(0) = \frac{2^n + (-1)^{n-1} \cdot 2^n}{2^n \cdot 2^n} = \frac{1 + (-1)^{n-1}}{2^n} \ge 0$$

$$f_n(1) = \frac{3^n + (-1)^{n-1} \cdot 1^n}{1^n \cdot 3^n} = \frac{3^n + (-1)^{n-1}}{3^n} = 1 - \left(-\frac{1}{3}\right)^n \le 2$$

これより、 $0 \le f_n(x) \le 2$ となり、

$$0 \le I_n \le 2 \int_0^1 (1-x)^{n-1} dx = -\frac{2}{n} \left[(1-x)^n \right]_0^1 = \frac{2}{n}$$

$$(4) \quad \sharp \ \ \ \ \ I_1 = \int_0^1 f_1(x) \, dx = \int_0^1 \Big(\frac{1}{2-x} + \frac{1}{2+x} \Big) dx = \Big[\log \Big| \frac{2+x}{2-x} \Big| \Big]_0^1 = \log 3$$

また、(2)より、lを自然数として、nが奇数(n=2l-1)のとき、

$$I_{2l+1} = I_{2l} = I_{2l-1} - \frac{1}{2^{2l-2}(2l-1)} = I_{2l-1} - \frac{1}{4^{l-1}(2l-1)}$$

$$l \ge 2$$
 のとき, $I_{2l-1} = I_1 - \sum_{k=1}^{l-1} \frac{1}{4^{k-1}(2k-1)} = \log 3 - \sum_{k=1}^{l-1} \frac{1}{4^{k-1}(2k-1)}$ となり,

$$\sum_{k=1}^{\infty} \frac{1}{4^{k-1}(2k-1)} = \log 3 - \lim_{l \to \infty} I_{2l-1}$$

すると、(3)から、
$$\lim_{n\to\infty}I_n=0$$
 なので、 $\sum_{k=1}^\infty \frac{1}{4^{k-1}(2k-1)}=\log 3$ である。

[解 説]

定積分と漸化式が絡み、さらに極限へと繋ぐよくあるタイプの問題です。(3)において、前の設問の結果と利用するのか、それとも独立に解くのか迷いますが、次の(4)をみると、後者であることがわかります。